

別紙（中間評価書）

平成 30 年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

通し 番号	2	事業区分：劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業 助成対象団体名：公益財団法人東京都歴史文化財団 施設名：東京文化会館
<p>助成対象活動に関する評価</p> <p>（妥当性）</p> <p>東京都が策定した「東京文化ビジョンの文化的戦略と主要プロジェクト」を踏まえた東京文化会館のミッション、ビジョンと事業計画の整合性については明確で、これらの達成に向けて事業が適正に組み立てられていると認められる。</p> <p>世界の舞台芸術を提供してきた「音楽の殿堂」の立場を明確にした上で、貸館では実現できない新たな創作、教育普及事業を展開し、事業全体の推進にあたり人材育成を行い、音楽家やワークショップリーダー、アートマネジメント人材の養成を行い、あらゆる人々が芸術文化を享受できる社会基盤の構築を目指しており、助成に値する文化的、社会的意義等が認められる。</p> <p>（有効性）</p> <p>目標の達成に向けて、事業が着実に推移していると認められ、アウトカム発現の可能性に期待が持てる。ただし、目標の達成度を測定する方法等については、不明確な部分がある。</p> <p>（効率性）</p> <p>事業はほぼ計画通り実施されており、事業期間は適切であったと認められる。</p> <p>一方、事業費については、概ね適切であったと認められるものの、相当数の活動において、要望時の予算額と報告時の実績額との間で乖離を生じており、今後、より実効性のある予算積算と適切な予算管理が望まれる。</p> <p>（創造性）</p> <p>音楽監督の小林研一郎が総合審査委員長を務める「東京音楽コンクール」は、小林の就任以来、国際性の推進、コントラバスやチューバを加えるなど各部門の充実が図られ、入賞者コンサートを含めたコンクールの入場者・参加者数は 4,800 名を超える規模に発展している。とりわけ、入賞者を「オペラ BOX『トスカ』」、「上野 de クラシック」、といった公演や、「まちなかコンサート」をはじめ多数のアウトリーチ事業に活用しながら継続した人材育成を行いつつ、各事業を有機的に関連させ相乗効果を発揮していることは評価に値し、これらの取組に独創性が認められる。</p> <p>また、「Workshop Workshop!2020 on stage &amp; legacy」では、身体的、精神的にもコンサート会場に足を運ぶことが困難な児童・生徒に対してプロ・オーケストラを派遣するアウトリーチや、ワークショップリーダーのトレーニングなどを行い、2,200 名を超える参加者を得ている。現在は、養成したリーダーを他の劇場へ派遣し、現地のリーダーを目指す人にノウハウを継承するという成果も現れている。さ</p>		

別紙（中間評価書）

らには、「Workshop Workshop!～国際連携企画～」では、海外の劇場（カーザ・ダ・ムジカ）との連携により、独自のミュージック・エデュケーション・プログラムを行い、0歳から大人まで幅広い世代が音楽への興味と関心を深めることに成功した。「Workshop Workshop!」全体として先導性及び新規性が認められる。

そのほかにも、「たいらじょう×宮田大アンサンブル『サロメ』」、「日本・ハンガリー国交樹立150周年記念『現代音楽と能』」、「創遊・楽落らいぶ」といった劇場オリジナル作品、委嘱作品の世界初演、地域特性を活かしたクラシックと落語相互の新たな魅力を発信する公演を行っており、これらは他ジャンルとのコラボレーションによる意欲的な取組であった。「サロメ」については他劇場における公演が実現し、今後の劇場間のネットワーク促進が期待できる。これらの公演事業には独創性が認められる。

世界の舞台芸術を提供してきた「クラシック音楽の殿堂」の立ち位置を明確にした上で、上述のとおり、コンクールを起点とし、継続して演奏家の支援を行いながら人材育成を行い、多元共生社会に向けた取組のワークショップなど多種多様な教育普及事業を展開し、クラシック音楽が社会課題解決に対して有効であることを示したことは特筆に値する。その他にも、ジャンルを超えたコラボレーションによる意欲的な事業を行い、平成30年度に実施した事業全体で、目標として設定した入場者・参加者数を大幅に超える実績を残した。

以上のことから国内外での評価の向上につながっていると認められる。

（持続性）

組織面では、非正規職員から正規職員への転換を進めており、組織体制の強化がなされている。

財務面では、都との密接な関係を基礎とした安定的な財務基盤の確保がなされている。

以上のことから、組織活動が持続的に発展し、アウトカムの発現・定着が期待できると認められる。

（総評）

東京文化会館の事業計画「より多くの人々に集い親しまれる劇場へ」は、妥当性、有効性、効率性、創造性、持続性において適切に進められていると認められる。

今後も東京文化会館が持つ様々なノウハウとネットワークを活かした企画展開力、クラシックの殿堂として世界最高水準の音楽を提供する発信力といった自らの強み・特色を活かし、戦略的な事業展開に期待したい。

中間評価結果

（可否のいずれかに○を附す）

継続

可

否